

卓 話

平成 28 年 7 月 12 日

『 ガバナー補佐訪問 挨拶 』

岐阜Aグループ ガバナー補佐 田邊雅範 様

今年度のジョン・ジャーム RI 会長のテーマは、「人類に奉仕するロータリー」です。ロータリアンが集う一番の理由は、「奉仕」のためであり、ロータリーは初期から「人類への奉仕」は礎であり、主な存在理由となっている。ポリオ撲滅を成し遂げ、クラブ・地区・RI のレベルにおけるリーダーシップを継続し、ロータリーを繁栄させることが、世界でもっと大きな「よいこと」の推進力となる、としています。



この RI のテーマに対して、2630 地区の劔田廣喜ガバナーは、奉仕の第 2 世紀へ向かっての RI とロータリー財団の決意、方向性を示したものと思われています。世界でよいことをすることは、人類に奉仕することであり、そのために戦略計画を実行することである、という方向性であります、とされています。

2630 地区の目標は、

地区内クラブの少なくとも 51%が会長賞を受賞する。

地区財団活動資金の 20%をポリオプラスに寄贈する。

年次基金への寄付を前年度よりも 5%増やす。

地区全体の会員数を 3%増やす。

会長賞は、

会員の増強と維持

財団への寄付

オンラインツールの利用

人道奉仕

新世代

公共イメージ

の 5 項目があります。

劔田ガバナーの信条は、「最も出席するもの 最も報われる」です。ロータリー活動は、例会出席から始まり、親睦を深め奉仕の心を高め、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕の実践へとつながっていきます。大切なのは、先ず例会出席です。

また、劔田廣喜ガバナーは、ロータリーの原理原則は、「決議 23-34 号」にあるとお考えで、これによりロータリーとは、「思いやりの心」「助け合いの心」であるとお考えです。『奉仕の理念＝「思いやりの心」「助け合いの心』は、誰にでもあるものの、つつい本能的かつ、利己的になっていきやすい心を抑えて、潤していくのがロータリーの考え方です。

「思いやりの心」「助け合いの心」でクラブを潤していくのが、『クラブ奉仕』、仕事に従事するの

が、『職業奉仕』、地域社会・国際社会を潤していくのが、『社会奉仕・国際奉仕』、青少年に植え付けていくことが、『青少年奉仕』とお考えです。

「奉仕の理念」「ロータリーの精神」「奉仕の理想」「超我の奉仕」「利他の心」は、全て同義語で、「他人への思いやりの心」であり、そんな「思いやりの心」「助け合いの心」を作り、ロータリアンとしての人格を形成する唯一の場所が、例会場だと信じている。ロータリー活動は、例会出席から始まり、親睦を深め奉仕の心を高め、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の実践へとつながっていくので、先ず例会出席をしてください。

「最も出席するもの 最も報いられる」 これが信条です、とのことです。

本年4月の規定審議会での決定に対する劔田ガバナーのお考えは、以前に貴クラブへのご挨拶の際にお話ししました。また、貴クラブの会長・幹事宛に5月に劔田ガバナーからの文書も配信されており、ご理解は賜っているものと思います。その中で、劔田ガバナーが書かれているように「各クラブが今後のビジョンをしっかりと持つこと、ロータリー運動の本質を失わないことが大前提であると考えています。将来、どのようなクラブを目指すのか、どんなクラブになりたいのか、何でもって、人々に我がロータリークラブを認識してもらおうのか、という原点をクラブがしっかりと考え、皆が共有する必要がございます。そうでなければ、クラブの柔軟性や革新性を目指したこれらの規約変更は、逆の効果を生むかもしれないと、私は危惧いたしております。」という言葉通り、今期1年間をかけて皆さんで議論して、クラブの未来ビジョンをお考えください。

もう一つ、お願いがあります。ロータリー財団についてのお願いです。ロータリー財団への寄付について、皆様のご協力をお願いすると共に、ロータリー財団本部100周年を迎えるにあたり、寄付履歴が現在8千ドル以上の会員は、何とか1万ドルにしてほしいとのことです。この100周年を記念する行事も各クラブで行ってほしい、という要請も来ております。できれば、ポリオを取り上げてほしいとのことです。また、クラブで4回のロータリー財団に関わる例会の実施と、MY ROTARYへの登録と活用も併せてお願いします。

7月16日に岐阜AグループのIM、合同例会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。

最後に、どうか例会を大切に、出席して、活発にして、貴ロータリークラブの活性化を図ってください。